

ブータン実習生が研修

救急機材の操作法学ぶ

市消防局

岡山市消防局は、国際医療ボランティアA MDA（北区伊福町）の依頼でブータンから実習生1人を受け入れた。28日から2月1日までの研修で、救急車への同乗などを通じて機材の操作手順や患者の処置方法を学んでもらう。

ブータン政府保健省のサルバジット・チェットリさん（28）。28日は市北消防署（同東古松）で、同署員から救

急車内の人工呼吸器や心電図モニターの操作方法について説明を受けた。出勤指令が入る



救急車で機材の操作方法を学ぶ
チェットリさん（中央）

と署員とともに救急車に乗り込み、実際に機材を使う様子を見学した。

チェットリさんは「学んだことを母国で広め、発展途上の救急システムを向上させた」と話していた。市内医療機関の視察や消防ヘリコプターの見学もする。

同市消防局は2010年にブータンへ中古救急車1台を贈っており、AMDAの仲介で実習生を受け入れた。外国人実習生を海外から受け入れるのは今回が初めて。

（藤田勝久）